



## 地球が温暖化していると聞いて いますが、道路と関係があるの ですか？

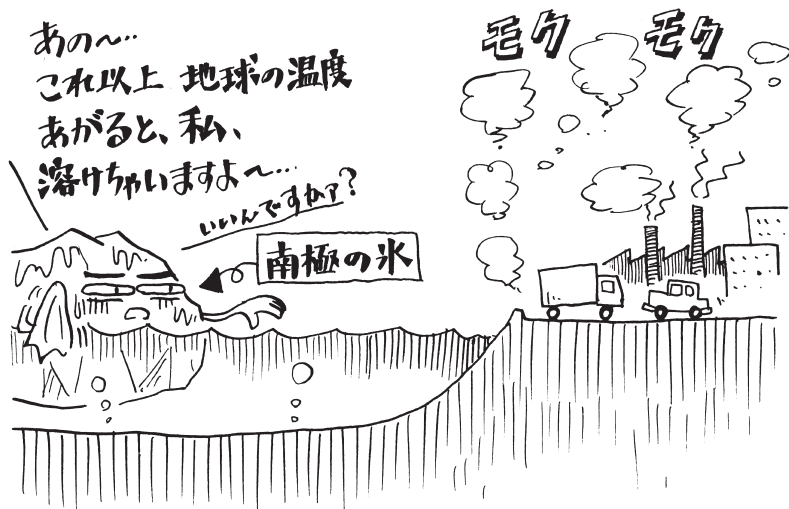
最近、地球温暖化が何かと話題になっています。これは異常気象や森林破壊など国境を越えた地球全体におよぶ環境問題の1つであり、毎日のように世界各国で報道されています。

地球上には大気圏、生物圏、海洋圏の3つがあり、それらは互いに二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を交換しながらバランスよく貯蔵することによって、自然界を成り立たせています。

しかしながら、産業革命以後の化石燃料(石炭や石油)の大量消費や第二次世界大戦以後の重化学工業を中心とした技術革新により、二酸化炭素の発生量は増え続けています。現在、人間活動によって大気中に放出される二酸化炭素は約270億トン(平成18(2006)年)といわれています。

二酸化炭素の特徴として、太陽光線はそのまま素通りさせますが、地球の表面から放出される赤外線を吸収し、まるで温室の中のように地表の気温を上昇させる効果(温室効果)があります。これが地球温暖化現象と呼ばれるもので、大気中の二酸化炭素濃度は過去100年間に1.25倍に増え、そのため地球の平均気温は約0.5度上昇したともいわれます。もし、このまま二酸化炭素の増加傾向が続けば、21世紀末までに地球の平均気温は約2度上昇し、その後も上昇を続けることが予測されています。また、海面水位も21世紀末までに約50cm上昇するといわれています。

このように、過去1万年の間に例を見ないきわめて急激な気候の変化は、水資源、農業、森林、生態系、沿岸域、エネルギー、都市施設、健康などの分野で人間活動にさまざまな悪影響を及ぼすことが予測されています。このため、国際的に協調した地球温暖化防止の取組みが活発に行われてい



ます。

気候変動問題に対処するための国際的な法的枠組みとして、各国の基本的な取組みを規定する気候変動枠組条約、同条約を受けて先進国に対して温室効果ガスの具体的な排出削減目標として平成 20 (2008) 年から平成 24 (2012) 年の 5 年間に平成 2 (1990) 年比で約 5% の削減などを盛り込んだ「京都議定書」が採択されています。現在、2012 年に終了する京都議定書第一約束期間後、すなわち 2013 年以降の次期枠組み構築に向けての交渉が国連の下で行われています。

わが国の二酸化炭素排出量の内訳を見ると、運輸部門が全体の約 2 割を占め、その 9 割が自動車に起因するといわれています。このようなことから、自動車からの排出量の抑制は目標達成のための大きな課題であり、低公害車の普及促進や公共交通機関の利用促進などの施策のほか、自動車の走行速度の向上により実効燃費を改善し、自動車からの二酸化炭素排出量を減らすための交通渋滞対策、ITS (高度道路交通システム) による交通流対策などの施策が実施され、今後もいっそうの取組みが求められています。